

【研究協力依頼】

IgA血管炎急性期スコアの検証、確立に向けた多施設共同観察研究へのご協力お願い（一次調査）

研究責任者：長森 恒久

旭川医科大学 小児科学講座 助教

北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL:0166-68-2481

FAX:0166-68-2481

email:ntsune5p@asahikawa-med.ac.jp

概要：既に作成した『IgA血管炎急性期スコア』の有効性検証を目的に、IgA血管炎患者の臨床情報、検査所見に関してご協力頂けないでしょうか

依頼趣意：

IgA血管炎(Henoch-Schonlein紫斑病)は、多く自然軽快するもののしばしば腹部症状が重症化して患児が苦しむ事があります。また急性期後期～回復期に発症する腎炎合併の有無が最大の予後規定因子となります。従って本来、軽症例と重症腹部症状や腎炎を合併する児を早期に区別出来るのが理想的であると言えます。

我々は先行研究として、一般的に検査可能な血液検査項目からなる『IgA血管炎急性期スコア』を作成しました。IgA血管炎で入院した時点でのスコア値4点以上は肉眼的血便の発現を感度90%特異度80%で診断・予測可能で[1]、またスコア値4点以上は後の腎炎発症に係るリスク因子でもありました[2]。

そこで今回は、さらにスコアの信頼性を評価するため、日本小児感染症学会の研究プロジェクト助成の元、全国の小児科施設にお願いしてデータ集積の上スコアの再検証を行なう為の多施設共同研究を行ないたいと考えております。

研究計画・方法：

対象は小児科で入院加療したIgA血管炎患者。

方法は臨床情報と診療上の必要性から採取した血液検査データの収集のみです。

本研究は旭川医科大学倫理委員会の承認の下行なわれます。当院では、各患児保護者からの研究参加受諾は説明同意書を使用せず、ホームページでの研究情報の公開（オプトアウト）のみで、拒否機会の確保のみをもって行ないます。つきましては一次調査として、指定のウェブフォームから

①2017年1月1日～依頼日までのIgA血管炎での入院患者数

②2次調査（臨床情報と入院時血液検査データ、腎炎発症時検査データ）提供の可否

③2次調査へのご協力が可能な場合、貴施設での倫理委員会申請の要否

についてご返信頂ければと存じます。何とぞご協力お願い申し上げます。

1. Nagamori T, Oka H, Koyano S, Takahashi H, Oki J, Sato Y, Muro K, Iseki K, Takeguchi R, Takeda T *et al*: **Construction of a scoring system for predicting the risk of severe gastrointestinal involvement in Henoch-Schonlein Purpura.** *Springerplus* 2014, **3**:171.
2. Nagamori T, Takahashi H, Yoshida Y, Oka H, Yamamoto S, Manabe H, Taketazu G, Mukai T, Sakata H, Oki J *et al*: **Severe gastrointestinal involvement predictive score in IgA vasculitis is also a risk factor for nephritis being varied depending on their ages of onset.** *J Paediatr Child Health* 2019, **55**(5):609-610.